

第1回「新・文明の旅」プログラム派遣学生壮行会

2月29日と3月1日に現地へ出発



2024年に創立100周年を迎える文京学院は、「本学の未来を切り拓く」という強い思いを込め、創立85周年を迎えた2009年に「新・文明の旅」プログラムを計画しました。文京学院生をユーラシア大陸の国々に送り、現地の大学生と交流を図りながら日本を発信する壮大な企画の第一陣が、いよいよ出発。2月21日、サロン・ド・ボンキョウで壮行会が開かれました。

海外派遣生は最初の訪問国「トルコ共和国」へ、被災地ボランティアは「岩手県遠野市」へ

「新・文明の旅」プログラムを実施するにあたり、全学部から選ばれた55名の学生が、昨年4月からユーラシア大陸と今回訪問するトルコ共和国、ブルガリア共和国、ルーマニアに關する勉学を重ねてきました。その中から第1回派遣生として17名が選ばれ、現地の学生たちと交流する

ことになりました。

日本に残るサポート学生は、コンテツ多言語知財化センターを拠点に活動する学生グループ「プレメンス」や、人間学部で環境問題を研究している中山ゼミの学生と共に、合計15名が昨年3月11日の「東日本大震災」で被災した岩手県遠野市に入ります。ボランティア活動をを行うと同時に、その現場からトルコのアンカラ大学やブルガリアのソフィア大学、ヴェリコ・タルノヴォ大学とスカイプを通じて、復旧・復興の様子を発信していきます。

島田燁子理事長・学園長からは、海外派遣生個々にお守りが贈られました。ユニフォームの白いパーカーを手にした一同は、それぞれの目指す現地への思いを深めた。

2月29日には海外派遣生らへ、3月1日には被災地ボランティアが、大勢の見送りの中、現地に出発しました。